



東京農工大学
世界トップ外国人研究者による
戦略的研究チーム結成
記者会見

平成26年9月3日

重点分野	外国人研究者 現所属 職名	研究課題	受入代表研究者 所属	チーム研究者 / 所属
①食料	Rowan F. Sage カナダ・トロント大学 教授 Tammy L. Sage カナダ・トロント大学 准教授	作物の生産力向上のためのゲノム情報を利用した戦略的研究	平澤 正 農学研究院 教授	有江 力 農学研究院 教授 梅澤泰史 農学研究院 准教授 大川泰一郎 農学研究院 准教授 大津直子 農学研究院 講師 山田哲也 農学研究院 准教授
	調整中 米国・大学 教授	動物細胞におけるRNA代謝機構の解明とその制御法の開発	高橋信弘 農学研究院 教授	福原敏行 農学研究院 教授 三浦 豊 農学研究院 教授 石井一夫 農学研究院 特任教授 古崎利紀 農学研究院 特任助教 石川英明 農学研究院 特任助教 泉川桂一 農学研究院 特任助教
	Neng-Huei LIN 台湾・国立中央大学 教授 Chak K. CHAN 香港・香港科技大学 教授 Yong Pyo KIM 韓国・梨花女子大学校 教授	島嶼および山岳を用いた東アジアの越境大気汚染のネットワーク解析	畠山史郎 農学研究院 教授	松田和秀 農学研究院 准教授 中嶋吉弘 農学研究院 助教
②エネルギー	Bruno Scrosati ドイツ・ウルム大学 訪問教授 イタリア・ローマ大学 名誉教授	イオン液体を用いた革新的エネルギー変換技術の開発	大野弘幸 工学研究院 教授	中村暢文 工学研究院 教授 秋澤 淳 工学研究院 教授 富永洋一 工学研究院 准教授
	Bo Monemar スウェーデン・リンチョーピン大学及び ルンド大学 非常勤教授	窒化物半導体単結晶中のキャリアダイナミクス評価に基づく結晶高品質化	熊谷義直 工学研究院 教授	瀨瀬明伯 理事(研究担当副学長) 教授 村上 尚 工学研究院 准教授 富樫理恵 工学研究院 助教
	Patrice Simon フランス・ポールサバティエ大学 教授 Thierry BROUSSE フランス・ナント大学 教授 Patrick ROZIER フランス・ポールサバティエ大学 准教授	キャパシタ・グローバルイノベーション研究	直井勝彦 工学研究院 教授	山崎 孝 工学研究院 教授 玉光賢次 工学研究院 客員教授 宮本淳一 工学研究院 助教 岩間悦郎 工学研究院 助教 木須一彰 グローバルイノベーション研究機構 特任助教
③ライフサイエンス	Carlos López-Otín スペイン・オビエド大学 教授 Michael Hoch ドイツ・ボン大学 教授 Hideaki Nagase 英国・オックスフォード大学 教授	コラーゲン分子複合体の代謝調節からアプローチする生命医科学研究	稲田全規 工学研究院 准教授	宮浦千里 工学研究院 教授 野村義宏 農学研究院 教授 池袋一典 工学研究院 教授 中澤靖元 工学研究院 准教授
	Esko I. Kauppinen フィンランド・アールト大学 教授	ナノ粒子製剤化ドラッグデリバリーシステムの研究	千葉一裕 農学研究院 教授	神谷秀博 工学研究院教授 西河 淳 農学研究院教授 長澤和夫 工学研究院教授 岡田洋平 米国・スタンフォード大学 研究員
	Chris Bowler フランス・パリ高等師範学校(IBENS) グループリーダー David Kisailus 米国・カリフォルニア大学リバーサイド校・准教授	マリンオミックス研究拠点の形成	田中 剛 工学研究院 准教授	片山葉子 農学研究院 教授 中村 史 工学研究院 客員教授 木庭啓介 農学研究院 准教授 吉野知子 工学研究院 准教授

戦略的研究チーム

食料 3

代表研究者

畠山史郎(農学研究院・教授)



外国人研究者

(ネットワーク構築のため3名を招聘)

Neng-Huei LIN(台湾・国立中央大学・教授)

Chak K. CHAN(香港・香港理工大学・教授)

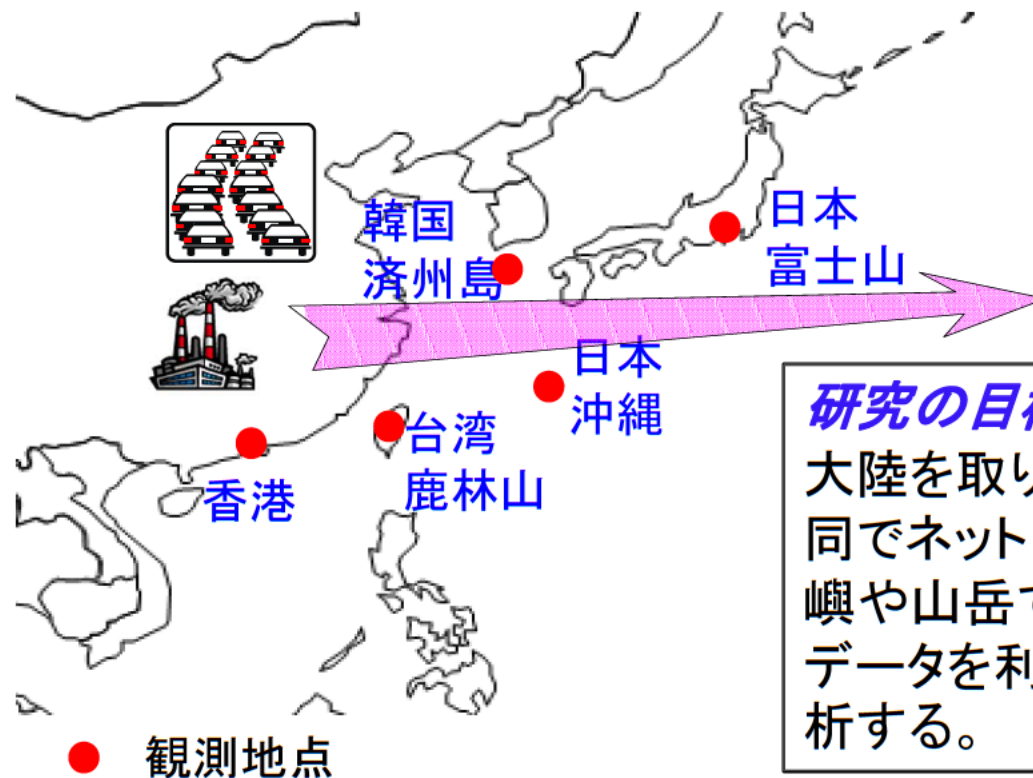
Yong Pyo KIM(韓国・梨花女子大学・教授)



<研究課題名>

島嶼および山岳を用いた東アジアの越境大気汚染のネットワーク解析

<研究の目標と概要>



研究の目標と内容

大陸を取り巻く国や地域の研究者と協同でネットワークを構築し、各地域の島嶼や山岳で得られたバックグラウンドデータを利用して、**越境大気汚染**を解析する。

代表研究者

熊谷義直(工学研究院・教授)



外国人研究者

Bo Monemar(スウェーデン・
リンヨーピン大学, ルンド大学・
非常勤教授)



<研究課題名>

窒化物半導体単結晶中のキャリアダイナミクス評価に基づく結晶高品質化

<研究の目標と概要>

深紫外から可視光域に渡る高効率な発光デバイス、低損失・高出力な電力デバイス開発のキーマテリアルであるⅢ族窒化物の高品質バルク単結晶の成長技術確立はエネルギー戦略上極めて重要である。世界的な研究・開発競争が進む本分野で本学のプレゼンスを向上させるため、本戦略的研究チームを形成した。

本学は、殺菌・ウイルス不活性化用途の深紫外線LED開発で世界の最先端を走っており、深紫外線LED開発に必須な構造完全性の高い窒化アルミニウム(AIN)単結晶の育成技術を有している。しかし、深紫外線LEDの更なる高性能化、さらには、電力デバイス応用の加速のためには結晶構造の完全性のみならず、結晶中の不純物や原子の抜け(空孔)などの“点欠陥”が結晶の電気物性に与える影響を詳細に解明する必要がある。

本研究チームでは、分子反応メカニズム、結晶成長、結晶構造解析、電気物性評価を専門とする本学の研究者グループに、光励起によるキャリアダイナミクスを用いた結晶評価の世界的権威であるMonemar教授を加えて上記の研究テーマに取り組み、研究力強化と若手研究者の育成を行う。



代表研究者

稲田全規
(工学研究院・准教授)



外国人研究者

カルロス・ロペスオーチン
(スペイン・オビエド大学・教授)

<研究課題名>

コラーゲン分子複合体の代謝調節からアプローチする生命医科学研究

<研究の目標と概要>

コラーゲン分子は生体を構成する最も主要なタンパク質として、多様な生理活性を発揮する生体分子である。本研究チームでは、カルロス・ロペスオーチン教授(スペイン・オビエド大学)を筆頭に、EU諸国の研究大学(ドイツ・ボン大学、イギリス・オックスフォード大学)より特別教授を招聘し、日本-欧州連携型の国際研究チームを結成する。

研究課題であるコラーゲン分子複合体の代謝調節研究は、複合体分子のシグナル伝達、酵素分解、疾患発症への関連性などを研究基軸とし、コラーゲン分子複合体の代謝調節から、生体医療材料への産業応用へとアプローチする生命医科学研究の新展開を図る。

